

平成3年度貝毒安全対策事業報告
新種プランクトン等による貝類毒化機構解明調査
(海況自動観測データを利用した毒化予知手法開発試験)
(要 約)

中村 靖人・秋山 由美子・田村 眞通（青森県水産増殖センター）
芙蓉海洋開発株式会社（青森県再委託）

調査結果の概要を以下に示す（詳細については平成3年度貝毒安全対策事業報告書（海況自動観測データを利用した毒化予知手法開発試験），平成4年3月，青森県 発行に報告した）。

1. 1985～1989年の陸奥湾自動観測ブイの水温、塩分、流向・流速、気象状況とホタテガイの毒化状況、貝毒原因プランクトンである D. fortii の出現状況との関連について検討を行なった。
2. 毒化開始から毒力ピーク時期には水温に対し、毒力及び D. fortii 出現数は指数関数的な関係にあることが判った。
3. ①西湾・東湾年間最高毒力②西湾・東湾 D. fortii 年間最高出現数③最初に毒力が規制値を越えた日（西湾・東湾）④規制値を越える毒力を検出した日数等の項目について自動観測ブイ・データ、青森地方气象台資料、対馬暖流流勢指標（青森県水産試験場資料）を用いて単相関をとった。毒化開始時期については高い相関を示したものが少なかったが、毒化終了時期については高い相関を示す項目が多かった。